

同志社大学スポーツ健康科学部
2023 年度 スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
結果講評について

同志社大学スポーツ健康科学部長

同志社大学スポーツ健康科学部は、2022 年 11 月 12 日に 2023 年度「スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入試」の合格者を発表しました。

この入試は、高等学校在学中、学業とスポーツに真剣に取り組み、大学入学後も勉学と競技活動の両立を目指す生徒さんを対象とするものです。出願に際しては、全国大会に正選手として出場するとともに、高校入学時より第 3 学年第 1 学期末までの評定平均値が 3.2 以上であることが条件となります。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止や延期となった全国大会、国際大会に出場することが決定していた場合には、出願可能といたしました。

例年の本入試は、第 1 次選考が書類審査 (50 点満点)、第 2 次選考が小論文審査 (50 点満点) と面接審査 (20 点満点) で行われ、合格判定は、第 1 次選考と第 2 次選考の結果を総合 (120 点満点) して選考しますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による影響に配慮して、第 1 次選考は志望理由書 (20 点) と競技成績 (30 点) で計 50 点満点、第 2 次選考が小論文審査 (50 点満点) と面接審査 (30 点満点) で行われ、合格判定は第 1 次選考の競技成績 (30 点) と第 2 次選考の小論文 (50 点) および面接 (30 点) の計 110 点満点で厳正に選考しました。

第 1 次選考における競技成績の判定に際しては、各競技種目の競技人口、大会の規模、競技バランス等も加味し、詳細に検討した結果、出願者 84 名中 67 名を合格としました。今年度の第 1 次選考のハードルは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたせい競技成績の面で例年より若干低くなっていました。

第 2 次選考の小論文審査では、例年どおり課題に対する論理的・客観的思考力および記述力を評価の主要観点としました。普段からスポーツ・健康科学にまつわる事象について関心や疑問を持ち、思考する習慣が必要となります。優秀な学生アスリートにとっては大切な態度・能力のひとつであり、同志社スポーツが目指す精神 (自治自立) でもあります。

第 2 次選考の面接審査は、受験生 1 名に対して 2 名の面接官で実施しました。同志社大学スポーツ健康科学部への強い進学意欲があり、本学部の教育・研究等をよく把握している受験生が多数おられましたが、残念ながら大学での学習意欲を感じることができない方も若干名おりました。本学部はスポーツや健康に関するサイエンスを学習する場であると同時に、競技だけではなく広い意味での同志社スポーツの担い手になってくれることを期待しています。課外活動のみを希望される場合は、適切な進路先とは言えません。本入試の趣旨のとおり、入学後に学業と課外活動を両立させる強い意志を持つ方を希望しています。

以上の第 1 次および第 2 次選考の結果、最終的に 44 名の合格者を決定しました。最終倍率は 1.9 倍でした。スポーツ健康科学部の求める学生像に即して、様々な競技種目から文武両道に長けた優秀な方々を選出しました。この入試で合格された方々が、今後、本学部を経て社会やスポーツ界のリーダーとして活躍してくれることを大いに期待しています。

以 上

<2023年度 入試データ>

	合計	男子	女子
受験者総数	84名	45名	39名
第1次選考合格者	67名	35名	32名
第2次選考合格者	44名	21名	23名

<合格者の競技種目>

バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ボクシング、フェンシング、ハンドボール、カヌー、空手道、剣道、テニス、硬式野球、ラグビーフットボール、陸上競技、サッカー、ソフトボール、ソフトテニス、射撃、少林寺拳法、新体操、スポーツクライミング、アーティスティックスイミング、バントントワーリング

2023年度 同志社大学スポーツ健康科学部
スポーツ能力に優れた者を対象とする特別入学試験
小論文 試験問題

受験番号

- 注意：1. 解答は別紙の解答用紙 1 枚にすること。
2. 問題用紙・解答用紙を持ち帰ってはならない。

<問題>

近年の運動部活動は、少子化の進行とともに、競技経験のない教師の指導や休日の指導・大会の引率等が教師にとって大きな業務負担になっています。このような状況に鑑み、スポーツ庁の「運動部活動の地域移行に関する検討会議」は、2022年6月、少子化の中、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保に向けて提言をとりまとめました。

この提言は、公立中学校の休日の運動部活動を地域へ移行するというものです。運動部の地域移行については、実施主体である地域のスポーツ団体等として、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、クラブチーム、プロスポーツチーム、民間事業者、フィットネスクラブ、大学等が想定されています。

あなたが公立中学校の運動部員であったとしたら、どの“地域のスポーツ団体等”で運動部の活動を行いたいですか、上記の中から一つ選んでください。そして、あなたが選択した地域のスポーツ団体等の部活動は、従前の運動部活動と比べどのような「プラス面」「マイナス面」が生じると思いますか、具体例を挙げるなどあなたの考えを分かり易く述べてください。

<文字数：800字以上1200字以内>

(以下余白。余白は下書きに使用してください。)